

ASSOCIATION OF
MUSICAL ELECTRONICS INDUSTRY

AMEI

1996年5月25日発行

Vol.1

創刊号

社団法人音楽電子事業協会 設立記念パーティー催される

4月15日、スクワール麹町
「芙蓉の間」に於て、
AMEI会員並びに、関係
各位約140名のご列席を賜
わり、盛大に催されました



写真上：会員各位の活発な情報交換もAMEIならではの光景
写真左：なごやかな雰囲気の中、会食風景

CONTENTS

社団法人音楽電子事業協会	設立によせて.....	2
社団法人音楽電子事業協会	第1回理事会のご報告.....	4
社団法人音楽電子事業協会	平成8年度組織及び事業計画.....	5
平成7年度の活動状況と今後の課題 専門委員会委員長インタビュー		
MIDI規格委員会.....		7
ハードウェア委員会.....		8

著作権委員会.....	9
ソフトウェア委員会.....	10
業務委員会／マルチメディア人材育成研究委員会.....	11
MIDI WORLD '96 DIGITAL ENTERTAINMENT FAIR.....	12
AMEI会員名簿.....	14
AMEI通信.....	16

社団法人音楽電子事業協会 設立によせて

I. 設立代表者ご挨拶

会長 日吉昭夫



ご多忙の中、本協会設立パーティーに多数の方々のご参加を頂きまして、心から感謝を申しあげます。

当協会は4月1日付けを持ちまして、通商産業大臣から社団法人音楽電子事業協会の設立認可を頂きました。通商産業省情報システム課並びに産業政策局の皆様方に親身にご指導頂き、思いのほか早く社団化できましたこと、厚く御礼申し上げます。また関連団体及び当協会会員の皆様方のご支援とご協力に対しまして重ねて感謝申し上げます。

さて、20世紀も後半にさしかかりました現在の技術革新の流れはアナログ時代からデジタル時代へ急速に変貌しようとしております。その中で当協会が設立されました事は、歴史的にも大きな意義があると思います。また、デジタル技術というものが、従来の色々なメディアとも融合しつつあります。音楽や音、通信、映像、コン

ピュータ等が融合して、マルチメディアの時代が築かれて行く中で、音楽電子は一つの大きな要素であると思います。このような背景の中での初年度の活動内容と致しましては、第一点目にMIDI規格、つまり音楽の通信或いはプロトコルの標準規格の公的標準化、いわゆるJIS化に取り組んで参ります。第二点目は、MIDIを中心とした音楽電子事業の普及啓蒙活動の推進で、本年度は「MIDI WORLD '96」を10月25日から3日間の予定で計画しております。他にMIDIに関する研究会、セミナー、海外視察団等の活動を考えております。第三点目は、音楽電子に関する知的財産権のあり方の研究。コピープロテクト等の問題も含め、デジタル時代に適応するための研究・協議をして行きます。第四点目は、音楽電子機器に関する活動で、安全規格或いは自主依頼試験、PL法や地球環境問題に関する技術的な問題点等の調査研究を進めて参ります。四本の柱以外にもマルチメディア時代の人材育成に関する研究やデジタルレコーディングに対する研究、規格全体の国際的なハーモニゼーションの研究等も平行して進めてまいる所存です。

皆様方の今まで以上のご支援、ご協力をお願い申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。

通商産業省機械情報産業局情報処理システム開発課
課長 河野秀樹様

II. 来賓ご祝辞



本日は音楽電子事業協会が社団法人化されまして、その設立を祝うパーティー、大変おめでとうございます。

我々通産省も高度情報化社会を出来るだけ早く実現するために、色々な政策を実施しております。特に昨今はマルチメディアと言われておりますが、そのコンテンツが重要な要素となり、その為の消費者ニーズに対応したソフトを作ることが大事になってきている訳です。

93年から94年の間にパソコンが3倍の規模になっておりますし、マルチメディアソフトだけ見ましても30%伸びており、状況が非常に変わってきております。

映像だけではなく、音の再生機能に対するニーズも高まっており、それがマルチメディアソフトの需要を増やしている一つの要因かと思っております。

新しく出来ました社団法人におかれましては、4つの主要事業をされる訳ですが、

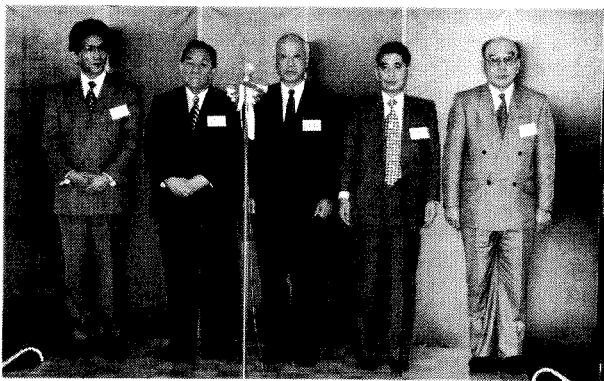
その中でMIDIという規格はマルチメディアの重要な要素になっております。元々は電子音楽機器の接続の規格だったのですが、通信カラオケあるいはコンピュータミュージックの共通規格という存在になってきております。このMIDIの標準規格化、いわゆるJIS化が第一の事業として行われることとなっております。マルチメディアソフトを振興する意味でも、MIDIは大変重要な規格ですので、我々も工業技術院の協力を得まして、今年度JIS化の原案をはかる為の予算を確保させて頂きました。他の事業も含め出来るだけのご支援していきたいと思っております。

本日ご来場の皆様の健勝と社団法人音楽電子事業協会の発展を祈念しまして、挨拶に変えさせていただきます。



会員各位が会場に入場されている様子

III. 三役ご紹介



写真左より、原田常務理事、梯副会長、日吉会長、保志副会長、村井常務理事

会 長 日吉 昭夫 (ヤマハ株式会社代表取締役専務)
 副 会 長 梯 郁太郎 (ローランド株式会社代表取締役会長)
 副 会 長 保志 忠彦 (株式会社第一興商代表取締役社長)
 専務理事 中田 健 (社団法人音楽電子事業協会事務局)
 常務理事 原田 永幸 (アップルコンピュータ株式会社
取締役マーケティング本部長)
 常務理事 村井 植夫 (株式会社カメオインタラクティブ
代表取締役社長)

平成8年度役員として、理事26名、監事3名、顧問2名が就任致しました。

設立趣意書

21世紀を目前に、マルチメディアの進展は、我々を取り巻く産業構造、さらには個々人のライフスタイルまで一変させつつあります。そして、今後、マルチメディアの果たす役割は、我が国経済社会において益々大きな地位を占めると考えられます。

このマルチメディアを活用する中で、映像・文字等と並び重要な要素のひとつが音・音楽であります。そして、その音・音楽について中心的な役割を果たしているのがいわゆる MIDI (Musical Instrument Digital Interface) 規格であります。

MIDI 規格は、その元々の役割であった電子楽器の制御プロトコルとしての活用はもとより、電子音楽用のソフトウェア、コンピュータネットワークでやりとりされる音楽データの共通規格として、また、通信カラオケの送信データにいたるまで、電子音楽の事実上の標準規格となっており、その管理・推進は音楽電子産業協会が一元的に行い、マルチメディアの重要な規格として活用されております。

しかしながら、MIDI 規格は民間事業者の任意規格であるために、正しい規格の普及促進に困難を生じてい

るのが現状であります。

将来のマルチメディアの健全な振興を図っていくためには、MIDI 規格の健全な普及を推進すべく日本工業標準規格、国際標準規格等の公的標準化を行う等の施策を実施するための体制整備が急務となっております。これらの課題を解決し、音楽電子事業の健全な発展を期すためには、MIDI 規格の健全な普及促進、公的標準化の推進、関連の技術の調査研究、新たな規格の制定等の情報処理施策を積極的に推進していく公的機関の早期設立が必要不可欠であります。

以上のような状況から、音楽電子産業協会を発展的に解散し、音楽電子事業に関する生産、流通、商品等の調査研究、情報の収集及び提供、規格の立案及び標準化の推進等を行うことにより、音楽電子事業及び関連産業の健全な振興を図り、もって我が国経済の発展及び国民生活の向上に寄与することを目的として、「社団法人音楽電子事業協会」を設立しようとするものであります。

平成8年3月7日

設 立 者 一 同

社団法人音楽電子事業協会

第1回理事会のご報告

社団法人音楽電子事業協会第1回理事会が、平成8年4月15日16:00より17:30まで、主婦会館5階会議室において開催されました。理事総数26名中25名の出席を得（1名は委任状）、開催に先立ち、日吉昭夫会長のご挨拶並びにご来賓の通産省情報処理システム開発課の石川課長補佐のご挨拶を頂戴致しました。この後、日吉会長の議長によって下記議案の審議が進められ、決議承認されました。

[第1号議案]

音楽電子産業協会の平成7年度決算報告、監査報告及び社団法人音楽電子事業協会設立時の財産目録の承認を求める件

- 平成7年度決算の収支計算書、貸借対照表、正味財産増減計画書、期末財産目録が提出され、承認された。大内和衛監事より内容が適切である旨の監査報告があった。
- 音楽電子産業協会の期末資産の全額を社団法人音楽電子事業協会へ寄付することが提案され、承認された。（会員には決算報告が後日郵送されます）。

[第2号議案]

社団法人音楽電子事業協会の諸規則、諸規程の制定の承認を求める件

- 事務局の就業規則、給与規程、出張旅費規程、退職金規程、役員報酬規程、経理規程、組織規程案が提出され、全員一致で承認された。
- 委員会規程が提案され、全員一致で承認された。

[第3号議案]

平成8年度委員会及び総務、運営委員長人事に関する件

村井総務委員長より平成8年度の下記委員会案が提案された。

- 理事会の諮問委員会として、総務委員会、運営委員会及び広報委員会の3委員会。
- 活動母体となる専門委員会として、電子音楽標準化委員会（標準化インターフェイス部会、標準化プロトコル部会）、MIDI規格委員会（MIDI規格検討部会、応用研究部会）、ハードウェア委員会（安全規格部会、環境問題研究部会）、ソフトウェア委員会（マルチメディア研究部会、マーケティング部会）、著作権委員会（カラオケ部会、伝送系部会、プロテクト部会）、業務委員会（MIDI WORLD '96実行部会、MIDI研修制度研究部会）の6委員会13部会。

- 研究委員会として、マルチメディア人材育成研究委員会とデジタル・レコーディング研究委員会の2委員会。

上記議案が全員一致で承認され、その活動への参加呼びかけが今後会員に行われる。

[第4号議案]

「MIDI WORLD '96」開催計画の承認を求める件

- 梅蔭業務委員長より、平成8年10月25日・26日・27日池袋サンシャインシティにて社団法人音楽電子事業協会及び日本経済新聞社の両社主催で通産省の後援（予定）もいただき、MIDIの啓蒙普及を目的として「MIDI WORLD '96」を開催する提案がなされた。理事会全員の強い賛成を得、会員の積極的参加を依頼する中、承認された。

[第5号議案]

新入会希望会社の承認

- 島村楽器株式会社、日本電気株式会社、ニフティ株式会社、株式会社日光堂、有限会社インターネットの各社が紹介され、全員一致で入会が承認された。

[第6号議案]

旧パーソナルレコーディング協会（理事長 浜谷和明氏）の研究活動を、社団法人音楽電子事業協会の委員会活動として設置・継続申請の件

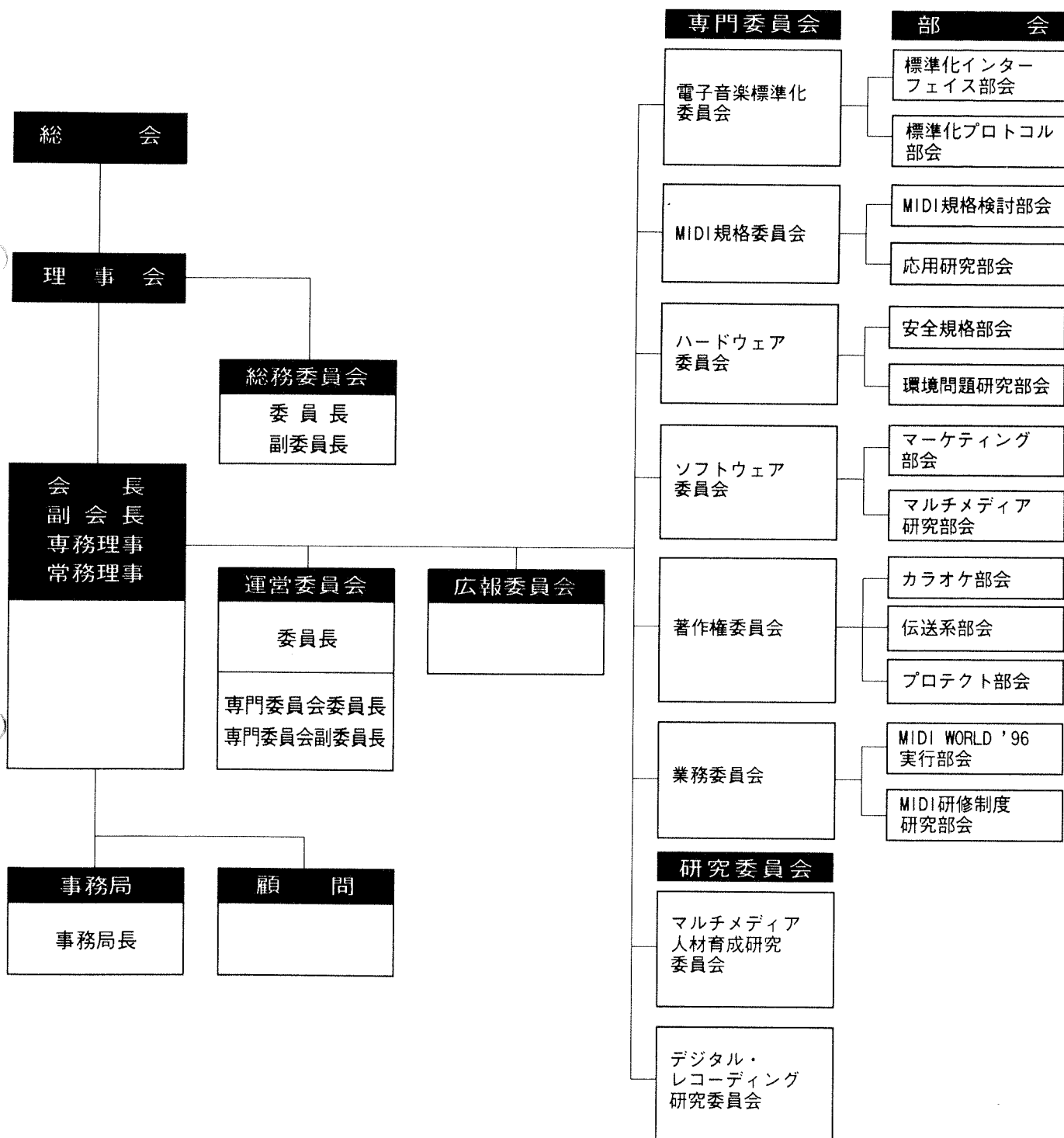
- 社団法人音楽電子事業協会の研究委員会の1つとして、「デジタルオーディオ機器間の接続インターフェイスに関する知識の普及と問題点の調査、研究」をテーマにデジタル・レコーディング研究委員会を設置する提案がなされ、承認された。

社団法人音楽電子事業協会

平成8年度組織及び事業計画

平成8年度組織図

平成8年度4月15日現在



平成 8 年度の事業計画

I 音楽電子事業に関する生産・流通・商品等の調査研究

- ◆音楽電子機器の生産、流通の統計作成方法検討
- ◆音楽電子機器の商品に係わる調査研究
 - 安全性に関する自主依頼試験結果の調査分析
 - 音楽電子ソフトの知的財産権について検討
 - 音楽電子機器の MIDI (Musical Instrument Digital Interface) 関連のコピープロテクトの検討
- ◆音楽電子機器の技術に関する調査研究
 - 環境保全及び製造物責任に関する技術課題の基礎調査

II 音楽電子事業に関する情報収集・情報提供

- ◆音楽電子機器に関する国内外の市場開発、新技術、安全規格等の情報収集及び情報提供

III 音楽電子事業に関する規格の立案・標準化の推進

- ◆音楽電子機器に係わる規格についての日本工業標準規格 (JIS) の制定への協力
 - 日本工業技術院、財団法人日本規格協会に協力
- ◆音楽電子機器に係わる規格についての国際規格の制定への協力
 - 米国 MMA (MIDI Manufacturers Association) と連帯強調し、MIDI ソフト規格の推進、次世代対応の MIDI 規格の立案及び検討

IV 音楽電子事業に関する普及・啓発

- ◆会報 (AMEI NEWS) の発行
 - AMEI の活動及び関連情報等を掲載した会報を年 3 回発行
- ◆各種セミナー、フェア及び各種委員会の開催
 - MIDI WORLD、マルチメディア人材育成研究会、MIDI セミナー、ソフト流通研究会等

V 音楽電子事業に関する国内外関係機関との交流・協力

- ◆音楽電子事業に係わる企業の経営改善及び技術向上のために、音楽電子事業関連の国内関係機関等との交流及び協力、各種研究会への参加
 - 財団法人マルチメディア振興協会、マルチメディア制作者連絡協議会、社団法人日本電子機械工業会、社団法人日本電気協会、財団法人クリーン・ジャパン・センター、電気製品認証協議会との交流及び協力
- ◆音楽電子事業に係わる海外関係機関との交流
 - 米国 NAMM (National Association of Music Merchants) ショーに視察団を派遣
 - 米国 MMA の総会での MIDI 規格に関する情報交換、MMA との交流

平成7年度の活動状況と今後の課題 専門委員会委員長インタビュー

MIDI 規格委員会

基本活動テーマ

MIDI 関連の規格制定、管理と標準化、及び MIDI を一般に普及させて行く

<平成7年度 主な活動内容のご紹介>

◆規格検討部会◆

- GM (General MIDI) レベル 2 の規格検討、標準化に関する準備
- MIDI の JIS (日本工業標準規格) 化に関する準備
- 歌詞付き SMF (Standard MIDI File) の規格検討

◆応用研究部会◆

- 次世代 MIDI (Musical Instrument Digital Interface) に関する研究



平成7年度 亀山征二委員長

Interview

編集：MIDI 規格委員会の運営目的とは？

亀山委員長：MIDIの規格を中心に、MIDIの普及をして行くことです。MIDIの事をよく解ってもらうことです。それから MIDI まわりには、例えば、GM、SMF、MIDI SHOW CONTROL 他、いくつかの規格があります。またマルチメディアを含め情報産業の中で MIDI が使われる可能性が増しておりますので、それに合ったカタチで規格を作り利用して頂くこと。この3つが目的ですね。

編集：GMレベル2とGSやXGフォーマットとの関係は？

亀山委員長：業界発展のためにも、スタンダードな音源規格が必要と考えております。この為ワーキンググループ (GM レベル 2) をつくり、規格化を進めております。出来るだけ早い時期に規格化を進めて参ります。また米国の MMA (MIDI Manufacturers Association) と連携をとり進めております。あまりローカルになってもいけないので、国際的なカタチで進めて行くのがベストです。

編集：GMとコンピュータの接点が増えると思いますが？

亀山委員長：米国のMMAではかなりソフト寄りの人達が集まっています。具体的には、ゲームソフトやコンピュータソフトの中にとり込んで行くような動きもあり、かなり情報機器という方に向いています。ちょっと日本と違うところもありますが、非常に重要なんで、その辺も考えに入れていきます。デジタル機器の一部として、GMやMIDI等もネットワークに合った使い方が出て来ますね。その辺も積極的に対応して行く必要があると思います。現在、応用研究部会というのを設けて研究しています。

編集：規格検討部会ではどんな規格が課題でしょうか？

亀山委員長：ワーキンググループとしてGMレベル2と、歌詞付きのSMFを検討しています。また、MIDIのJIS化の為の検討・調査などがあります。

編集：歌詞付きのSMFについての規格化のメドは？

亀山委員長：やはり一つの標準化、規格を作ることが、産業を発達させると思います。特にホーム用となりますと各社バラバラでは使う方も作る方も大変です。米国のMMAと共同で規格化に向けてのミーティングもしましたし、出来るだけ早く夏頃には規格化したいと考えています。

編集：次世代MIDIはVer.1.0を強化したものでしょうか？

亀山委員長：応用検討部会がスピードや容量などの問題を含めて具体的にやっています。今のMIDIのプロトコルを維持しながら、他のプロトコルも埋め込んで行く。具体的に言うとIEEE1394というプロトコルに絞り込んで検討しています。これはこれからの大きな標準になるだろうと思います。この他ユニバーサルシリアルバス (USB) などもありますが、まずIEEE1394からスタートします。

編集：次世代MIDIの規格化のメドは？

亀山委員長：まだ研究段階ですが、これも日本だけの規格じゃどうしようもないので、アメリカとも歩調を合わせて、国際的な規格にしようとしています。

編集：MIDIのJIS化の目的は？

亀山委員長：平成8年度の課題としては、JIS化。MIDIを普及、促進させるためにも重要なので、全力でやりたいですね。みなさんに認知していただくためにも。

ハードウェア委員会

基本活動テーマ

電子機器に関する製品安全、電波雑音並びに環境問題等に関する取り組み



平成7年度 澤野幸広委員長

<平成7年度 主な活動内容のご紹介>

◆安全規格部会◆

- PL 法に関する AMEI ガイドライン作成
- 自主依頼試験の実施
- EU 電波雑音規制に関する AMEI ガイドライン作成

◆環境問題研究部会◆

- 「製品アセスメントマニュアル」の検討

Interview

編集：ハードウェア委員会はどんな活動をしているのですか？

宮間副委員長：まず第一に、安全規格部会では製品の安全性を追及することがあります。感電したり、熱を生じて火災の元にならないように、設計時にある施しをするわけです。安全性そのものは、各社の責任下において評価し、設計しています。その評価基準を策定する際に、各国の、或いは国内の規制や規格があるわけです。

澤野委員長：電気用品取締法等の基準を各社で咀嚼し、一定の水準で運営しているのですが、AMEIでは業界団体として各社にばらつきがでないように標準化を図っております。つまり、会員各社の製品の安全が保たれるように検討し、評価基準策定のガイドライン作り等を行っております。

宮間副委員長：また電子楽器或いはデジタル機器には特有の設計状況があります。それをピックアップし、会員メーカーはこういう基準にと、業界標準を決める訳です。

編集：PL法が去年7月に施行されましたがその対応は？

宮間副委員長：公的規制というのは、法律の専門用語が多く、解釈が難易なこともあって、各社で解釈の違いがでないようにガイドラインが必要なんです。

澤野委員長：PL法の基本に沿って「電子楽器および関連機器の安全確保の為の表示に関するガイドライン」を作りました。これは、注意や警告等の表示についてまとめたものです。各社が異なる表示をしていると、消費者が細かな注意文を一字一句漏らさず読んだ上で理解しなくてはなりません。そこで、消費者が目で見えて理解できる基準として作成致しました。表示は、出来る限り単純でわかりやすく。例えば道路標識のように標準化されていれば、どこへ行っても困らないものです。ですから標準化をすることで、一般の方々にも理解しやすくすることが、このガイドラインの目的になっております。

編集：勉強会ではどのようなことを行っているのですか？

澤野委員長：メーカーの規模や企業スタンス等によって、情報の入手に多少のばらつきもあります。そこで、各社の情報を交換しながら、効率よく会員各社に伝えて行くことが勉強会の狙いです。

宮間副委員長：外国或いは国内の情報や規制などを入手することが難しい場合もありますよね。でも入手できた企業があったとしたら、お披露目しようということです。

編集：平成7年度の主な活動について教えてください？

宮間副委員長：平成6年度頃から手をつけているのですが、ヨーロッパで今年度の1月1日からスタートしている電波雑音規制に関するガイドラインも作成しました。また、今注目しているのがLVD。これは来年の1月1日から始まるヨーロッパの安全規格です。それに先駆けてガイドラインを作り、既に発行しました。今後は、これらAMEIで定めた様々なガイドラインをもとに各会員が自主的に実行することになります。

編集：環境問題研究部会というのはどのような活動を行っているのでしょうか？

宮間副委員長：去年の9月に発足した新しい部会です。一般的にいろんな法律があります。例えばリサイクル法や環境管理に関する法律だとかあるんです。環境とは非常に投資が必要なんです。例えばプリント基板の洗浄剤に含まれるフロンガスを撤廃しようとした場合、代替えの洗浄剤を用意したり、時には自社開発まで行ったり。澤野委員長：企業のスタンスの差によって、既に進んでいるところと、これから手をつけようとしているところがあるため、格差が生じています。

宮間副委員長：そこでまずは法律の解釈から始めています。環境問題研究部会では、ここ1年で環境問題に関するアセスメントマニュアルも策定しようと進めています。国内の法律等については勉強してきたので、今後は外国に目を向けて法律の解釈を進めることになると思います。

著作権委員会

基本活動テーマ

マルチメディア産業の育成発展を推進する為の核となるソフトに於ける著作権制度の研究と検討

<平成7年度 主な活動内容のご紹介>

◆カラオケ部会◆

- 業務用通信カラオケに関する著作権使用料問題の交渉
- JASRAC（日本著作権協会）に対してAMEIとしての要望書提出
- 文化庁著作権課に対して上申書提出
- 文部省に対して陳情書提出

◆伝送系部会◆

- パソコン通信によるMIDI音楽データ販売に関する著作権使用料協議
- パソコン通信によるMIDIカラオケ送信に関する著作権使用料協議

◆パッケージ部会（コピープロテクト部会）◆

- MIDI音楽データに関するコピープロテクト問題の検討
- MIDI音楽データに対する著作権管理コードの研究



平成7年度 佐々木隆一委員長

Interview

編集：著作権委員会はどのような活動をしているのですか？

佐々木委員長：電子音楽は新しい分野なので、著作権使用料の規定がないわけです。一企業が単独で著作権団体と交渉すると非常に不利なので、業界としてまとまって交渉すること、これが一番重要な仕事です。それから電子音楽メディアに於けるプロテクトなどの技術開発について提言するとか、また文化庁や通産省などの関係省庁の著作権に関する研究会に出席して、AMEIの立場から発言をし、将来のマルチメディアに関する色々な規制や法律を協議したり、著作権に関連して他の業界とも交流を行っています。最初は電子楽器用のソフトだけでしたが、通信、業務用カラオケ、それからCD-ROMというように、メディアが増えてくるため、その都度著作権団体と交渉しなければならないのが実情です。

編集：カラオケに関する著作権交渉とは？

佐々木委員長：パッケージ型のカラオケから、マルチメディア型のカラオケへ移行する際に、著作権の交渉中にもかかわらず、技術的な背景、マーケットの背景とかの状況がどんどん変わってきてしまいます。著作権団体にとっては、新しいジャンル、新しい市場ということで、どうしても高く決めたいでしょうし、我々としては事業の継続に不利な価格に決めたくはない。利害が相反していて、すごく難しいですね。

編集：新しい市場といえば、ネット上での流通問題も？

佐々木委員長：今、事業ニーズがすごく高まっています。通信の規制緩和があって、通信コストも下がっています。そうすると通信を使った流通の問題が、一番のボイ

ントになってきます。業界も新しいし、新しい技術も出てきて、前例も全くないわけで、新たな状況に依拠しての追っかけっこになってしまう。企業の立場では今日の事が大事でも、業界団体としては今日だけ良かったらいいということにはならない。将来に禍根を残すとまずいですしね。大きく言うと国際競争力というか国際的な視野でみていくことが、非常に重要となるわけです。インターネットとか、パソコン通信に国境はない。例えば著作権団体に妥協して国際的にみて高めに決めてしまうと、日本でソフト事業をやるメリットがないんで、海外に流出してしまうことになります。AMEI全体の問題ですけど、国際的な色々な機関と連絡をとり合って進めなければなりません。

編集：コピープロテクトは現在どこまで進んでいますか？

佐々木委員長：世界的なレコード業界の団体があって、そこではレコード管理コードというのがあるんです。

今、MIDI著作物の著作権管理の方法を考えています。コピープロテクト部会でMIDIソフトの著作権を管理して行くためのコードを研究しています。技術的には簡単なんですけど、後はデータにどう埋め込むか、改ざんされないためのテクニカルな部分が課題です。色々な特許も絡んでおりますが、年内の実用化を目指しています。

編集：プロテクトが決まればネット上での流通も可能？

佐々木委員長：今は本当に危ないんですよ。個々の企業としては事業として積極的にやっつかまわらないのですが、業界全体としては将来の利益や、権利者との関係等ちょっと問題ですね。社団法人ということで、公益団体としてきちっと取り組まなくてはならないですね。

ソフトウェア委員会

基本活動テーマ

電子音楽ソフトウェアに関わる市場の育成と標準化の研究やマルチメディアに関連したセミナー、研究会を行う



平成7年度 小田聖之委員長

<平成7年度 主な活動内容のご紹介>

◆定例会◆

○会員の勉強会として各種セミナーを実施

◆流通部会◆

○パッケージメディア、ノンパッケージメディアに関する流通研究

○MIDIセミナーの開催等の市場啓蒙活動

◆マルチメディア研究部会◆

○ソフトウェア側から見たGMレベル2の規格検討・提言他

Interview

編集：ソフトウェア委員会はどのような活動をしているのですか？

小田委員長：定例会は年10回やってます。8月は夏休みで、2月はセミナーのみを開催しています。各部会のオフラインミーティングは隔月。定例会は約2時間で各部会報告や事務局報告及び会員の勉強会として各種セミナーを行っています。平成7年度は計8回実施しました。毎月担当を決めて、著作権、インターネットやマルチメディア等その業界の第一人者をお招ねきして、最先端の動向等をお話し頂き、会員の皆様の評判が大変良いようです。

編集：著作権委員会と合同で定例会などの活動をなさっているようですが？

小田委員長：「ソフトウェア委員会」の前身は、「日本電子音楽ソフトウェア協会」(JEMSA) といって、現在の「著作権委員会」と一緒に活動していました。当時はMIDI関連のソフトが出来始めた頃で、新しい産業として著作権を見直す必要がありました。ですからまず著作権の勉強会からスタートしたんです。その後、業務用カラオケや伝送系のソフトウェア等の出現で著作権の重要性が益々高まり、著作権委員会が独立しました。しかし著作権の問題はソフトウェア委員会でも非常に関連性があるために、定例会は一緒にやっており両委員会の情報を出来るだけ共有するようにしています。

編集：流通部会ではどんな課題があるのでしょうか？

小田委員長：パッケージもありますが、ノンパッケージの流通がこれからの課題じゃないかと思ってます。流通上でのコピープロテクトの問題とか、課金とか、著作権の問題とか色々ありますので、著作権委員会とも連携を取りながら活動してきました。

パッケージに関しても、お店の棚のスペースが決まっています。そこに効率よく、回転のよいものを置きたいわけですね。MIDIの商品をどうやってお店で表現するのか、そこを課題としてみんなで研究しているんです。AMEI会員には流通の方もいらっしゃるので協力しあってね。お店の人の商品知識の問題もありますよね。彼等の悩みは、コンテンツの中身についてお客様に説明をしたいのに、GM音源や各社独自の音源システムが色々あり、複雑になっています。またシーケンサーフォーマットも、

SMFが標準ではあっても、各社まちまちのフォーマットもあります。そんなお店の人の商品知識をどうやって上げていったらいいのかをテーマとして「MIDIセミナー」を今年2月に実施しました。DTM市場から、インターネットの話、コンピュータが普及してネットワークで繋がれたらDTMビジネスをお店はどうするのかと言った内容でした。しかし本当はお店の人達にそんな知識の必要性を感じさせない為の業界標準化が重要なんです。これもこれからの重要な課題と思っています。

編集：マルチメディア流通部会ではどのようなことを？

小田委員長：GMレベル2のワーキンググループを中心として、ソフト側から見た提案をまとめています。GMレベル2ワーキンググループにつきましては、オンライン会議を活用し、必要に応じてオフラインミーティングで活動してきました。4月1日のオフラインミーティングにおいて最終提案をまとめて、新生AMEIの第一回定例会で報告し、MIDI規格委員会にもお渡ししました。

GMレベル2のワーキンググループの今後の活動としては、アメリカのMMAとの情報交換をしてきた中で、ダウンロードダブルサンプル等マルチメディア 이슈のウエイトが高いようですので、そこを切り口にした新しい活動を考えています。またマルチメディア研究部会は、今までGMレベル2ワーキンググループの活動が中心でしたが、今後は音楽電子事業をもっと盛んにするための研究活動もしたいですね。マルチメディア分野がどんどん大きくなって行く中で、音響・音楽の比重がまだまだ低いと感じていますので、他の委員会と強力な連携を取りつつ、この課題を追及して行きたいと思っています。

業務委員会

基本活動テーマ

音楽電子関連市場の拡大、活性化を目指した各種広報活動及び啓蒙活動やイベントの推進

<平成7年度 主な活動ご紹介>

◆市場開発部会◆

○MIDI 認定制度、セミナーやスクール等の研究

◆イベント部会◆

○AMEI 主催によるイベント「MIDI WORLD '96」の展開計画の立案

Interview

編集：業務委員会の主な役割とは？

梅蔭委員長：AMEIのコアになっている“MIDI”の普及を通じて、AMEIの存在を対外的にアピールする為の啓蒙活動が主なテーマです。

編集：「MIDI WORLD '96」について？

梅蔭委員長：MIDIは電子楽器に限らず、現在はパソコンや通信上でも重要な役割を担っており、音楽のあり方も大きく変わってきております。

こうした状況、また将来への可能性、発展性を具体的に提案できるような内容を計画しています。

今秋、10月25日から27日までの3日間、池袋サンシャインシティでの開催です。

平成7年度 梅蔭正委員長

AMEIが主催する最初の大型イベントですので、会員各社の絶大なるご支援とご協力を得ながら、出展側と参加される多くのユーザーの方々にとって、相互に意義のある、発展・継続性のあるイベントになるよう、委員会のメンバー一同知恵を出し合いながら議論を重ねております。



マルチメディア人材育成研究委員会

基本活動テーマ

マルチメディア社会を支えられるソフト技術者を育成するプログラムの研究と実践の可否について検討

<平成7年度 主な活動内容のご紹介>

○マルチメディア人材育成プログラム実施に向けての可能性、事業化等について検討、研究

○AMEI 会員に対して「マルチメディア人材育成アンケート」を実施

○MMA (マルチメディア振興財団) 人材育成プログラム「3級模擬検定」の実施、バックアップ講座の開催

Interview

編集：マルチメディア人材育成研究委員会の活動とは？

赤松委員長：今回社団化になったので、役割として公益性とか、公共性ってものが問われると思いましてね。マルチメディアにも音楽や音響の役割があります。実際のビジネスでも人材育成の必要性があります。カリキュラムや教材を発掘しながら、AMEIとしても一つの事業として考えられるのではないかとこのことで検討。会員の方々にも関心をもって頂くよう働きかけてます。

編集：MMAの人材育成プログラムの模擬検定とは？



平成7年度 赤松憲樹委員長

赤松委員長：「3級模擬検定」を行ったのですが、11月には「3級」と「2級」を予定しています。MMAのマルチメディア制作者のくくりには、音楽音響制作者、CG制作者、映像制作者の3つがあり、他に企画構成等もありますが、AMEIでは音楽音響制作の部分を手掛けました。「3級」はペーパーですが、「2級」に関してはペーパーの他に実技もあります。少なくとも「2級」の人達は現場で仕事ができる人材ということで、「3級」に関してはマルチメディアの人材育成を認識してもらうこと、マルチメディアの人材の裾野を広げることが目的です。そう言うことで、「3級」は多くの方に受けて頂きたい。先日の模試の共通問題等は会員の方にもお送りする段取りです。まずは業界内の盛り上がり、世論作りからやって行こうと思ってます。

MIDI WORLD '96

DIGITAL ENTERTAINMENT FAIR

ここまでできたぞ！ デジタルと音楽

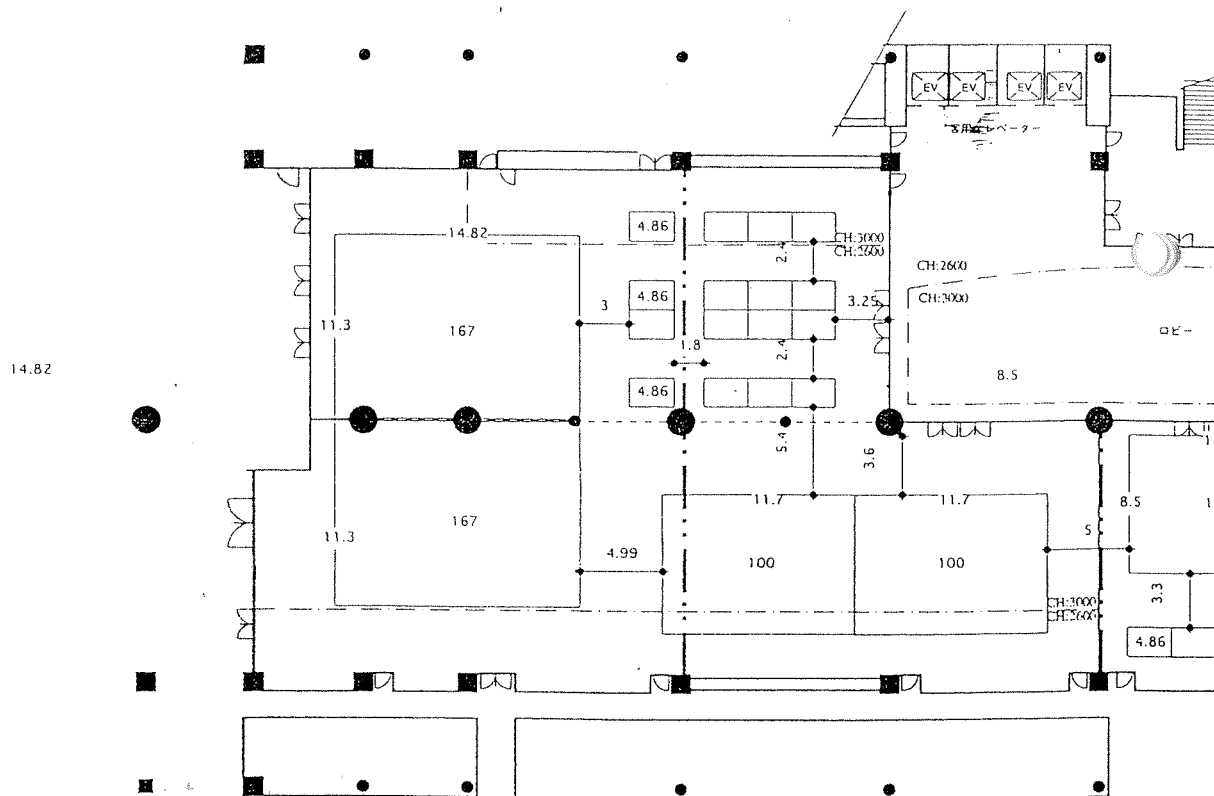
会期：1996年10月25日（金） 4：00p.m.～8：00p.m. <関係者内覧会>
 1996年10月26日（土） 10：00a.m.～6：00p.m. <一般開放>
 1996年10月27日（日） 10：00a.m.～5：00p.m. <一般開放>

会場：池袋サンシャインシティ文化会館2階 展示ホールD
 東京都豊島区池袋2-1 TEL.03-3989-3486

セミナー会場：

池袋サンシャインシティ文化会館5階 501 / 502

ラフレイアウト案



主 催 AMEI（社団法人 音楽電子事業協会） 日本経済新聞社

後 援 通商産業省（予定）
協 力 日経 BP 社、日経ホーム出版、テレビ東京など（予定）
協 賛 音楽・コンピュータ関連団体、出版社など（予定）

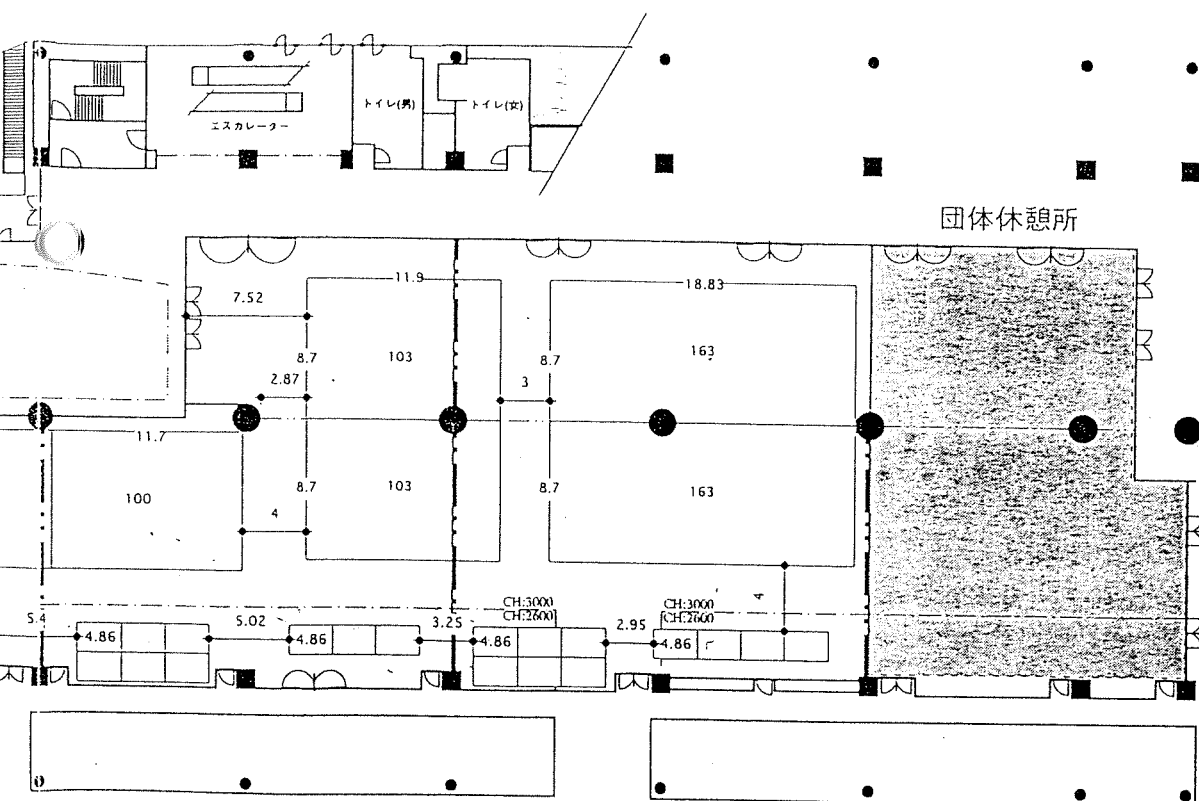
出展企業募集中

<出展に関するお問い合わせ、申込書送付先>

〒160 東京都千代田区飯田橋4-4-7 オービットビル4階
社団法人 音楽電子事業協会
『MIDI WORLD '96 事務局』
TEL.03-3239-0475 FAX.03-3239-2935

<出展申し込み締め切り>

1996年6月7日（金）



※出展状況により、実施時のレイアウトはこれとは異なります。

AMEI 会員名簿

(五十音順)

あ

株式会社 アイ・オー・データ機器
赤井電機株式会社
アカソフト
アスキーネット株式会社
アップルコンピュータ株式会社
株式会社 アップサウンド

い

株式会社 石橋楽器店
有限会社 インターネット

う

株式会社 ウィネット 12

え

株式会社 エクシング
エディロール株式会社

お

株式会社 大阪村上楽器
株式会社 大阪有線放送社
株式会社 楽販大阪

か

カシオ計算機株式会社
株式会社 カミヤスタジオ
株式会社 カメオインタラクティブ
カモンミュージック株式会社
株式会社 河合楽器製作所
株式会社 神田商会

き

ギガネットワーク株式会社
株式会社 キュービジョン
株式会社 キューブ

く

クラリオンソフト株式会社

こ

コナミ株式会社
株式会社 コルグ
コロムビア音響工業株式会社

さ

株式会社 サウンドクラフト
株式会社 サンワード

し

株式会社 シーティーエー
株式会社 シーミュージック
島村楽器株式会社
株式会社 ジャストシステム
シャープ株式会社
株式会社 ジャパンインストルメント
学校法人 尚美学園

す

株式会社 ズーム
株式会社 鈴木楽器製作所

せ

セイコー電子工業株式会社
株式会社セガ・エンタープライゼズ

そ

ソニー株式会社
ソフトバンク株式会社

た

株式会社 タイカン
株式会社 第一興商
株式会社 タイター
大日本印刷株式会社
株式会社 タムラ製作所

て

ティアック株式会社
TDK 株式会社
株式会社電波新聞社

と

東京サウンド株式会社
東京通信機工業株式会社
凸版印刷株式会社

み

株式会社 友ミュージック

な

南洋貿易株式会社

に

株式会社日光堂
ニフティ株式会社
日本アイビーエム株式会社
日本コロムビア株式会社
日本テレビ放送網株式会社
日本電気株式会社
日本ビクター株式会社

は

パイオニア株式会社

ひ

ビクターテクニクスミュージック株式会社
ビクターレジャーシステム株式会社

ふ

株式会社 フェイス
フォステクス株式会社
不二音響株式会社
富士通株式会社
株式会社 ブライトインターナショナル
株式会社 プリマ楽器
プリンス通信工業株式会社

へ

ベスタクス株式会社
マスターネット株式会社

ま

松下通信工業株式会社
松下電器産業株式会社
松下電工株式会社

み

有限会社 ミュージカルプラン
株式会社 ミュージックネットワーク

も

株式会社 モリダイラ楽器

や

株式会社 山野楽器
ヤマハ株式会社
財団法人 ヤマハ音楽振興会
ヤマハミュージックトレーディング株式会社
株式会社 ヤマハミュージックメディア

り

株式会社 リットーミュージック
株式会社 リムショット

ろ

ローランド株式会社

わ

株式会社 ワキタ

<会員会社 89 社>

<賛助会員>

有限会社 アンディーズ・ミュージック
株式会社 エスシジェー・エーケー
株式会社 音楽之友社
株式会社 ミュージックトレード社
株式会社 ヤスダコーポレーション
株式会社 ラプラス

AMEI通信

◆「AMEI NEWS」編集からのお願い◆

次号の「AMEI NEWS」からQ&Aコーナーとして、様々な疑問やご質問等にお答えして参ります。音楽電子関連にまつわる事柄であれば、著作権の問題から、技術的なこと、さらには法律や環境問題まで、各分野の専門家におうかがいして誌面に掲載する予定です。そこでAMEI会員の方々から、疑問や質問等を公募することと致しました。仕事上や運営上で生じた些細なことでも、できる限り詳しくお答えできればと思っております。会員みなさまからのお問い合わせをお待ちしております。

○「Q&Aコーナーの疑問・質問」宛先

疑問・質問事項を紙面にまとめて、AMEI事務局「AMEI NEWS／Q&A質問箱」係宛に郵送、もしくは下記方法でお送り下さい。

e-mail : kamikawa @ po. ijnet. or. jp

Fax : 03-3239-2935

★「MIDI」は、社団法人音楽電子事業協会の登録商標です。MIDI規格によるIDナンバー及びMIDI関連のロゴの使用にあたっては、当協会の会員であることが必須となります。

AMEI NEWS Vol.1 / 1996.5.25

社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発行： 社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒102 東京都千代田区飯田橋4-4-7 オービットビル4F

TEL.03-3239-0475 FAX.03-3239-2935

発行人： 中田 健

編集人： 中村 陸郎（広報委員会）

編集協力： GIG 28 INC.